

愛宕山の火祭り

(若土、広瀬)

愛宕山は、昔から上小鴨地区の人たちが村の守り神として信仰し、洪水、火災、作物の病虫害などの災難から逃れるため、祈り続けてきた靈験あらたかな山とされている。

標高240メートルの山頂には、火の神をまつる愛宕若宮権現ほくらの祠があり、文化10年（1813）建立の棟札がある。

8月23日（旧暦7月23日）に中村、劔見集落の男たちが、手料理を持って愛宕山に登り、祠の前で野火のびをたき、大声で「※まんどう、まんどう」

と唱え、車座になってお神酒をくみかわし、無病息災、五穀豊穡を祈っている。上小鴨のシンボルとして小学校歌にも歌われている。広瀬の愛宕山でも、同日に同じ様な火祭が行われている。



愛宕山頂上の若宮権現祠

広瀬の火祭りでは「まんどう、まんどう」と唱えた後、子ども達が頂上の野火から採火した松明たいまつを掲げて下山し、肥松こえまつのかがり火に点火して、その明かりの前で老若男女一同に会して直会なおらいをする。いわれは、不明だが昔より料理の中にジュン豆（煎った大豆を醤油で味付けしたもの）が必ず用意されている。

(注)

まんどう（万灯）：火をたき神仏を供養するための火祭の掛け声

